

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2007年4月20日発行 第37号

タイ在住の会長より バンコク便り Vo.1

ソクラーン

4月13日から15日にかけてタイ最大のイベント「ソクラーン」が全国で行われました。伝統的な厳かな儀式はさておき、道行く人と水を掛け合う「水掛祭り」として日本でも知られていますね。私の家の近所でも軒先にバケツを出して、水鉄砲で通りがかりの人に水をかけて遊んでいる子どもたちがいて、私も「ぴしゃっ」とやられました。このぐらいの水掛けなら我慢もできますが、バックパッカーのメッカ「カオサーン通り」や、バンコク随一のビジネス街であり夜の歓楽街でもある「シーロム通り」では、全身ずぶ濡れになるほどの滅茶苦茶な水掛けが行われます。普通の格好では近づけない地域です。

さて、この時期は大型連休でもあるので、水掛祭りに参加しない人は帰省したり、旅行に出かけたりします。悪名高いバンコクの渋滞もこの時ばかりは影を潜め、心なしかいつもより澄んだ空気が味わえます。この静かなバンコクが好きで、私はいつもバンコクでソクラーンを迎えるのですが、それにはもう一つ理由があって、この3日間は1年で最も交通事故が多発する時期で、毎年数日百人（去年は800人ぐらいだったと記憶しています）が、交通事故で死亡しているのです。そのほとんどが飲酒運転だといえますから、この時期は車での遠出は躊躇せざるを得ません。

バンコクの日本

地方とは違って、バンコクには日本の物が溢れています。日本料理もブームは去って、今や生活の一部になった感があります。地元資本の日本食レストランも増え、有名な「富士」レストランは郊外の支店でも行列ができるほど賑わっています。また、ここ1、2年は「こんなものまでが！」と思わせるような「日本」が次々にバンコク上陸を果たしました。100円ショップの「ダイソー」、「無印良品」、たこ焼き専門店の「築地銀たこ」、定食屋の「大戸屋」、「モスバーガー」などなど。「モスバーガー」を除くといずれも日本と同じかそれ以上の価格設定で、日本の値段を知る私はなかなか買う気にはなれないのですが、どこもタイ人で賑わっているのを見ると、バンコクの経済力は確実に上がっているなという気がします。



総会出席のため、久しぶりに帰国した会長（左から2番目）

2007年3月ワークキャンプ報告

報告者 坂 茂樹

3月17日から26日までの10日間、チェンマイ県ドイサケット郡にある山岳部少数民族の子ども達の為の学生寮（カサロンの家）で調理場兼食堂の建設をするワークキャンプを行いました。日本人7名とタイ人コーディネーターのムティターさんが参加し、人数的には小規模なキャンプでしたが、カサロンの家の子ども達と希望の家の子も建設作業を手伝ってくれたので、建設作業は順調に進みとても楽しい10日間のキャンプとなりました。調理場兼食堂は、スレート屋根と腰までのブロック塀がある9メートル×8メートル四方の建物で、建設予算は50万円弱でした。建設資金には、アルシュ（自立を支援する会）からの助成金10万円とキャンヘルプタイランドの40万円を充てることができました。

カサロンの家2006年度の寮生

1. Kalaya Saesern (カラヤー セースン) (女) 小学1年生 Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Huaysaikao 村
2. Kanjana Meelong (カンジャーナー ミーローン) (女) 小学4年生 Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Huaysaikao 村
3. Chatchai Jai (チャッチャイ ジャイ) (あだ名 ウアン) (男) 小学4年生 Chiangrai 県 Maesuai 郡 Maepaklae 村
4. Nikorn Meelong (ニコーン ミーローン) (男) 小学3年生 Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Huaysaikao 村から
5. Saengsuree Santithai (セーンスリー サンティタイ) (男) 小学2年生 Chiangrai 県 Maesuai 郡 Paadaeng 村
6. Poramat Jajong (ポラマット ジャジョーン) (男) 小学3年生 Chiangrai 県 Maesuai 郡 Maepaklae 村から
7. Wichien Jato (ウィチエン ジャトー) (男) 中学2年生 Chiangrai 県 Maesuai 郡 Paadaeng 村から
8. Worawit Piewtoo (ウォラウィット ピアウトゥー) (あだ名 モセス) (男) Chiangmai 市内から
9. Paisaan Jongla (パイサーン ジョンラー) (男) 中学2年生 Chiangrai 県 Wiengpapao 郡 Patung 村から
10. Natda Jaga (ナッター ジャガ) (女) 小学生 Chiangrai 県 Maesuai 郡 Mae Tum 村から

(昨年寮に入っていた Ja-uu Muunla (ジャウー ムーンラー)君は、村から学校までのスクールバスが走るようになったため、隣村の学校に行くことになりました。)



カサロンの家は皆様の寄付金により運営されています。ご協力をお願いします・・・

ワークキャンプ活動日記

3月17日(土)

いつも通り朝8時にセントレア中部国際空港に集合し、その後、予定通りタイ国際航空に乗り込み一路スワンナブーム空港を目指した。バンコクの新しい空港は、とにかく巨大と聞いていたので乗り継ぎで迷わないか心配でしたが、比較的簡単に国内線の搭乗口を見つけることができた。新空港で早々と両替を済ませたが、このところのパーツ高で1万円が3,000パーツにもならなかった。タイの物価の上昇とパーツ高のダブルパンチ。

夕方6時過ぎ、チェンマイでも新しい国際線ターミナルへ到着。昨年は税関で一悶着あったので、今回はおとなしめに税関を通過しようと思ったが、案の定スーツケースを開けられ、中に詰まっていた子供服の山をしっかりと見られてしまった。「荷物が多すぎるから次回来るときは税金を払ってもらおうよ。」と念を押された。ペコペコと頭を下げて無事に税関を通過し、外に出た。

迎えに来る予定の希望の家の人たちはまだ到着しておらず、代わりに今回も通訳兼現地コーディネーターを務めてくれるムティターさんとそのおばさんとお姉さんが出迎えてくれた。それから5分後くらいに希望の家のスタッフのみなさんが到着し、そのまま、2台の車に乗り込み一路カサロンの家へ向かった。

途中のポサーンという町で夕食のクイッティアオを食べ、1時間後にカサロンの家に到着。2006年3月に建設したカサロン寮第2棟に宿泊させてもらうので、そちらに荷物を運び入れ、子ども達への挨拶もそこそこに就寝。日本時間ではもう夜中の12時近くだった。



3月18日(日)

キャンプ初日は日曜日のため作業はなく、子ども達と交流をして過ごした。希望の家はキリスト教の施設なので、日曜日にはミサが行われる。ミサの後、希望の家を訪問していた

看護師のグループが子ども達に歯磨き指導とビンゴゲームをした。その後、ワークキャンプの参加者はカサロンの家に戻り、各自が思い思いにのんびり過ごす。

コーディネーターのム(ムティター)さんは、今夜空港に到着する現地参加の参加者を迎えに行くためにチェンマイの町へ行ってしまった。深夜の到着なので、そのまま街で1泊し翌日の朝にカサロンへ戻ってくる予定。他の参加者は夜9時にはベッドに入る。



3月19日(月)

チェンマイから100キロほど北上した山奥にあるカレン族の村を1泊2日で訪問する。チェンマイとチェンライを結ぶ幹線道路を左折から10キロくらい舗装もしていない山道を進んだ先の谷あいにあるその村は、近くに川が流れてとてものんびりした雰囲気。

昼食前に村長に村のことをいろいろ聞く。30年前にここに移住してきたらしい。比較的うまく生活しているようだった。昼食は希望の家から持参したもち米とお肉だった。

午後は一緒に参加した看護師の4人組が、歯磨き指導やビンゴゲームや村人たちの身体検査も実施していた。体重や身長、血圧の測定もしていた。



一緒についてきた希望の家の子も達は、昼食後、川沿いに生えている山菜を採りはじめ、あっという間にビニール袋をいっぱいにしてしまった。希望の家を持って帰って夕食に

するらしい。ちゃっかりしているというか感心させられるというか、日本人がタイ人から学ぶことはまだまだたくさんあると感じた。



夜、日本人は2人1組でカレン族の家にホームステイすることになり、各組がそれぞれの宿泊先に散っていった。ここからは通訳無しで一晩過ごさなければならなかった。夕食は各自のホームステイ先が用意してくれ、現地の食べ物が出てきた。しかし、それが何なのかはまったく分からなかった。この村には電気が来ていないので、明かりは屋間にソーラー充電したバッテリーと蝋燭だけだった。真っ暗で特にするともなく早々と就寝。明け方は標高が高いためか、かなり冷え込み、寝袋と掛け布団だけでは足りないくらいだった。

3月20日(火)

翌朝は、各自の家庭で朝食をいただき、帰りの出発まで自由に過ごした。帰りの時間がはっきりしていなかったのだけれど、出発間際に参加者の一人が行方不明になってしまい、村人が必死で探してくれたが、発見までに1時間近くかかってしまった。川をさかのぼって一人で散歩していたらしい。とにかく無事に見つけて何よりだった。

帰り道の途中で大きな池に寄った。池には鯉や鯰がたくさん飼われていて、訪問者は餌を買って魚たちに与えて遊べる。希望の家の子供たちはこういう遊びが大好きで、キャッキヤ言いながら、あっという間に100パーツ分の餌をあげてしまった。

昼食は幹線道路沿いの温泉場で食べた。チェンマイはわりと温泉の出るところが多い。水道で手を洗わせてもらおうと温泉のお湯だった。

夕方前にはカサロンの家に到着。夕食を食べてのんびりしていると豚小屋の母豚が9匹の赤ちゃんを出産した。この家畜小屋は2005年8月にキャンヘルプタイランドの支援で

建てられたもので、すでに、親豚2頭、数頭の子豚、鶏約200羽が飼われていて、カサロンの家の食料や現金収入の足しになっている。そこに赤ちゃん豚が9匹も生まれた。これらの子豚は売って現金化されたり山岳民族の家族に無料で支給される。



3月21日(水)

朝食後、近く用水へ豚の餌となる水草を取りに行く。まだ冷たい川へ子ども達が飛び込み水草を根っこからとって行く。はじめは楽しそうにやっていたが、10分くらいで体が冷えてしまい、岸に上がると日差しを受けて暖くなった道路のアスファルトに横になり体を温めていた。飼料袋2つ分の水草が取れた。

いよいよ建設作業初日。今回は調理場兼食堂の建設。柱はすでに立っていたので、床の基礎作りから始める。床にブロックを2重に並べ、その間に鉄筋を入れてからセメントを流し基礎を作る。炎天下での作業なので効率はあがらないが、希望の家やカサロンの家の子供達も作業に参加してくれる。昼食後は暑くて仕事にならないので3時過ぎまで休憩。子供達はこの炎天下でもサッカーをして遊んでいる。初日の作業はブロックを並べるところで終わってしまった。

カサロンの家の北西にラフー族の村ができていた。まだ20世帯くらいの小さな村だが、今年の夏にカサロンへ来たときにはなかったの、ここ半年で新しく移住してきたようだ。村の中には飲料水用の井戸がなく、カサロンの家まで井戸水をもらいにしょっちゅう子ども達がリヤカーを引っぱって来ていた。このカサロンの井戸も2005年の夏にキャンの支援によって作られたものだ。

3月22日(木)

作業2日目。ブロックの間に鉄筋を入れる作業にかかる。針金を縛るのでかなり手が疲れる。午前中に鉄筋を組み終え、午後からはそこにセメントを流す作業に移る。暑さでかなり

バテる。午後、アイスクリーム屋さんがやってきた。子ども達にアイスクリームを振舞う。40人以上の子ども達に配っても600円ちょっとの出費ですむ。



午後は暑くて作業ができないので、子ども達をつれて用水まで水草を取りに出かける。小さな子ども達は水草取りよりも水遊びに必死だった。

カサロンの家に戻っても特にやる作業がなく、のんびりと夕方まで過ごす。のんびりとした時間の流れがとても心地よい。



3月23日（金）

作業3日目。床に土を入れて平らにする作業を行う。どこからか土を掘って運ばないといけないと思っていたら、ダンブカーが土を運んできた。うまく建物の中に土を下ろしてくれたので、それを均すだけの作業ですんだ。トータルでダンブカー7台分の土が運ばれてきた。床と同時進行で屋根の骨組みの溶接も行われていた。この作業は危険なので日本人には手が出せない。タッサニーさんの親戚のおじさんが一人で黙々と作業をしていた。

午後は子ども達と一緒に用水へ水遊びに行った。今回は水草取りではなく純粋に水遊び。子ども達も大はしゃぎだった。夕方、またダンブカーが土を運んできたので少しだけ均す作業をする。

夜、金曜の夜なのでチェンマイ市内のナイトバザールへ出かける。みやげ物屋が道路の両サイドに1キロメートル近く

並びすごい賑わいだった。特に欲しいものはなかったが、人に頼まれていたTシャツを10枚買った。希望の家のスタッフのジェーとタッサニーさんの息子のタムは足マッサージを受けていた。夜10時過ぎにカサロンの家に戻り、そのまますぐに就寝。



3月24日（土）

朝食後、涼しいうちに食堂の周りの土を均し犬走を作る。山になっていた土がきれいに整地され形になってきた。屋前に作業は終了。今回のキャンプでの労働はこれでおしまい。

各自が自由に過ごす。タッサニーさんの娘さんがバンコクからちょうど帰宅したので、一緒に街までブラセンさんを迎えに行くことにする。街中でブラセンさんを拾った後、カルフルというスーパーマーケットで夕食の買い物をする。魚売り場でノルウェー産のサーモンを見つけ、面白いので1匹丸ごと買うことにした。お店の人が刺身でも食べられると言ったので、合わせてわさびと醤油も買った。

カサロンの家に戻り石垣さんにサーモンをさばいてもらう。よく切れる包丁がなかったので魚が少しぼろぼろになったが、何とか食べられる状態になった。カサロンの家の寮父母に刺身を勧めたが怖がって食べなかった。刺身でも十分においしいサーモンだったので日本人はバクバク食べた。粗塩も買っていたので、それを振って塩焼きも作った。こちらはタイ人にも大人気で1匹のサーモンがあっという間になくなってしまった。

夕食はタッサニーさん特製のチェンマイ名物カオソイ（カレーラーメン）。

3月25日（日）

いよいよ帰国の日。朝食後、荷物を整理し、部屋の大掃除をして希望の家へ移動。日曜ミサに出席後、タッサニーさんの自宅で昼食。タッサニーさんの娘さんが作った日本のカレ

ーライスを食べた。

昼食後、昨年の夏にワークキャンプを行った学校を訪問するために早めに希望の家を出発しようと思っていたら、参加者の一人が熱を出してしまい、大事をとって病院へ行くことにする。ムさんとキャンのスタッフの伊藤さんが付き添いをしてくれることになった。残りの参加者は予定より30分遅れで昨年の学校訪問へ出発。

昨年お世話になった学校の先生と学校近くの市場で待ち合わせをして学校へ。途中、先生の自宅に招待されフルーツの盛り合わせをいただいた。その後、学校で昨年作った食堂の壁を見てから、隣のお寺のお坊さんに挨拶をして学校を後にする。今は休み期間なので学校には生徒がいなかったが、水やり当番の高学年の女の子数名が学校に来ていた。

帰り道で、こちらも昨年大変お世話になった焼肉屋に寄り道。昨年は毎晩のようにここへ飲みに来ていたので、店の人もさすがに覚えていてくれた。缶ビールと焼肉を立ち食いであつまんでからさよならをする。

夕方、チェンマイ空港で荷物を預け、空港近くのデパートへ夕食を食べるために移動。デパートの中にあるタイスキレストランで夕食をとり、出発まで自由時間。病院組と連絡を取り、大事に至らなかったことと無事に帰国できることを確認。

空港で病院組みと合流してチェックイン。希望の家の人たちとお別れをする。また機会があればここに来たいといつも思う。そして、来てしまう。

チェンマイ空港からバンコク空港へ。新しくなったバンコクのスワンナブーム空港での乗り継ぎ。大きいとは聞いていたが、乗り継ぎのために1キロメートル近く免税店の中を歩かされた。免税店に用のない僕たちには不親切この上ない。夜中の飛行機で名古屋へ出発。



3月26日(月)

朝8時、セントレア到着。参加者全員がまとまって税関を抜けたので、何も調べられなかった。全員無事に帰国できて本当に良かった。空港には伊藤理事がお迎えに来てくださいました。

ワークキャンプ行程表

月日	時間	行動内容	宿泊
3月17日(土)	8:00	中部国際空港集合	寮
	夕方	チェンマイ到着、	
3月18日(日)	午前	オリエンテーション	寮
	午後	エイズ孤児施設「希望の家」訪問	
3月19日(月)	終日	カレン族の村訪問	ホームステイ
3月20日(火)			寮
3月21日(水)	終日	建設作業(基礎ブロック積み)	寮
3月22日(木)	終日	建設作業(基礎鉄筋組み)	寮
3月23日(金)	終日	建設作業(床の土入れ)	寮
	夜	ナイトバザール見学	
3月24日(土)	終日	建設作業(犬走土入れ)	寮
3月25日(日)	午前	帰国準備・清掃 希望の家ミサ	機中泊
	午後	ファイナムカオ学校訪問	
	21:00	バンコクへ	
3月26日(月)	0:10	名古屋へ	
	8:00	中部国際空港到着	

報 告

2006 年度総会の報告

報告者 大矢 治夫

キャンヘルプタイランドの2006年度総会は3月31日土曜日の13時より、NPO プラザなごや、4階会議室にて開催されました。

当日の出席者は西川会長、新井副会長の出席の他、総勢 16 名の出席をいただき、また葉書による委任状提出は 31 名でした。

2006 年 12 月 31 日現在の正会員数は 107 名で、会則による、総会の定足数は正会員の 1/10 以上の出席と定めてあり、総会は成立しました。

定刻の 13 時から大矢治夫さんの司会により会議を進行して、推薦で選ばれた伊藤剛史さんの議長のもと議事進行がなされました。

議案は次のとおりでした。

1 号議案・2006 年度活動報告 2 号議案 2006 年度会計報告 3 号議案 2007 年度活動計画
4 号議案 2007 年度予算 5 号議案 2007 年度運営体制

以上の議案が各担当者より経過説明がなされ、質疑応答もされて、全ての議案が可決成立され、15 時頃総会は終了しました。

引き続き懇親会に入り、始めに西川弘達会長より、昨年 9 月のタイ国軍事クーデター以後の国内情勢の報告がありました。報告によれば政治状況は不透明で、予測はつかない、経済的混乱は殆んど感じないし、社会的には南部を除いて落ち着いている、との事でした。続いて、坂茂樹さんより 3 月 17 日～3 月 26 日間に実施された春のワークキャンプの様子が PC の映像を使って報告されました。

懇親会は 16 時に終了して、2006 年度総会は無事に終了しました。

参加募集

2007 年 7 月ワークキャンプ参加者募集

キャンヘルプタイランドは、タイ東北部のロイエットで、学校とその周辺の村人達が使用する集会場兼食堂を建設するためのワークキャンプを行います。現地の学校に滞在しながら子どもたちと共同で建設作業を行います。セメント練りやブロック積みなどの簡単な作業ですので特別な技術は必要ありません。また、現地で 1 週間以上生活しますので、一般の旅行では体験できない現地の人たちとの深い交流は一生の思い出がつくれます。高校生以上の健康な方ならどなたでも参加いただけますので、興味のある方はぜひご応募下さい。

日 程：A 日程 7 月 28 日（土）～8 月 4 日（土） 8 日間

B 日程 7 月 28 日（土）～8 月 13 日（月） 17 日間

参 加 費：43,000 円～53,000 円（別途チェンマイ往復の航空券が必要）

募集人数：20 名～30 名

応募方法：事務局に資料請求後、必要事項をご記入の上ご返送ください。

応募締切：6 月 22 日（金）必着

イベント

《 メーデーフェスティバル 》

日 時：4月28日（土） 11時～15時

場 所：日本ガイシホール（旧レインボーホール）名古屋市南区

当日は会場内の「国際貢献コーナー」にブース出展します。

昨年は万博の影響もあった為か当日の会場にはお子さん連れが目立ち、立ち寄られた方たちもご家族の方たちが多かったようです。今年もキャンヘルプ以外にいろいろな団体や企業が参加しますので、ぜひご家族でお越しください。

《 スタディーツアー合同説明会 》

日 時：6月9日（土） 13時～17時

場 所：なごやボランティア・NPOセンター

名古屋市中区 伏見ライフプラザ12F（御園座南200メートル位）

名古屋NPOセンターに加盟する団体を中心に、スタディーツアーやワークキャンプを実施する団体による「合同説明会」です。キャンヘルプは、7月28日からロイエット県で実施する予定のワークキャンプへの参加を呼びかける予定です。今回のワークキャンプも特別な技能や体力は必要はらず、参加される皆さん個々人のペースで仕事ができ、子供たちや村の人達との心に残る交流が体験でき、お金では買えない「心の財産」を得られる貴重な機会です。お友達と一緒に参加しませんか？

活動報告

（2007年1月～3月）

活動	月日	場所	内容
運営委員会	1月27日	名古屋事務所	総会準備、会報、ワークキャンプについて
運営委員会	2月24日	名古屋事務所	ワークキャンプ準備、奨学金授与式について
運営委員会	3月24日	名古屋事務所	総会準備
総 会	3月31日	名古屋事務所	平成16年度総会、懇親会
臨時運営委員会	3月31日	名古屋事務所	7月のワークキャンプについて

編集後記

- ▼ 3月のワークキャンプの帰りに初めてバンコクの新しい空港で乗り継ぎをしました。国内線から国際線に乗り継ぐ場合、ターミナルの端から端まで1キロメートル近くを歩かされてしまいました。というか、わざとそういう設計になっているのだと思います。通路の両側には免税店がぎっしりあり、コーヒーショップやアイスクリームショップが絶妙なタイミングで現れます。あんなに歩けば嫌でも一休みしようと思うでしょう。しかもコーヒーが1杯100バーツ近いです。田舎なら10バーツが相場なのに、さすが国際空港です。

ばんしげき

＜キャンヘルプタイランドネットワーク通信＞

発行 キャンヘルプタイランド
発行人 西川 弘達
編集人 坂 茂樹
発行日 2007年4月
住 所 〒450-0003
名古屋市中村区名駅南1-20-11
NPOプラザ名古屋2F南
Tel & fax 052-566-5131
(OPEN: 毎週火、木・土曜の13~17時)

E-mail: canhelp@npo-jp.net
ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>